

観測部月報

★

東亞天文協會

★ 流星課だより (96)

課長 小楨孝二郎

本十月の流星界は先づ下旬のオリオン、双子の流星群が主要位置を占める。本年は20日が上弦に當るので観測条件が最良とは云ひ得ないが、極大時期たる20日～24日頃は夜明前の數時間は月光の妨害なく充分観測出来る。昨年は一時間平均30個以上の豊富な出現を見たものがあるので本年も一層の注意を拂ひたい。又この外10日頃のジャコビ＝流星群や本月から十一月にかけて火球を伴ふ牛座 β の流星群が活動する。特に後者は短週期流星群として最近話題に上つてゐるものなので一般會員の観測を希望する。

× × × ×

さて前回報告後到着した観測は

吉井耕一氏 (本年五、六月及び八月の概略報告)

森安千秋氏 (八月分)

川人武正氏 香川県三島郡笠田村 (八月分)

の諸氏のものである。

八月4日～6日に其の出現を豫想されたハセル岡林彗星に伴ふ鯨座流星群は山本會長、吉井、森安、川人の諸氏及小楨によつて注意されたが、4日朝川人氏が4個それらしきものを見た外はみな殆んど何も見えてゐない。月光の爲光度4等以下の流星は観測困難であつたと云へ、この結果から同流星群出現の確實性は疑はれないでもない。だゞ、去る1932年アリゾナ観測隊が八月3日夜に観測した輻射點中これに近いもの ($\alpha = 10^\circ$, $\delta = -10^\circ$) の存することは注意すべき事であらう。

ペルセウス流星群の観測結果は吉井氏の概略報告以外は入手してゐないが、同氏と筆者の得た極大前後數日同のペルセウス群のみの出現程度は次表の如きものであつた。

日 付	一時間平均数(吉井)	同 左 (小楨)	同左修正値(小楨)
10—11	4	6.0	8.6
11—12	7	15.0	18.8
12—13	30	22.0	24.4
13—14	15	14.0	17.5
14—15	12	10.5	15.0
15—16	7	5.6	6.3
16—17	3	—	—

極大は明らかに13日朝にあつたのである。又吉井氏は同月12日に4個、14日に1個の流星寫眞の撮影に成功されてゐる。(VIII 31, 1939)

★ 太 陽 課 (1939年8月)

報告者 12名(前月より1名減)

天 候 近畿以西は、百五十年振りと云ふ旱天に悩んだ程であつただけ、個人別に見ても、充分とは云へない迄も、可なり觀測日数は増加した。全員で補へば勿論缺測日はない。然し筆者の(半ば推定ではあるが)滋賀縣に於ては全を通じて觀測可能であつたらしい。珍らしい好晴であつた。

概 況 前月に比較して再び2~3割方平均相對數は増加した。今春と大體同程度であり、肉眼黒點の出現は盛んであつた。

肉眼的黒點	坂上	津留	鳥崎	木邊	正村	すばる會	計
觀測日數	20	16	9	24	17	19	105
出現日數	12	16	8	12	16	4	68
黒點群數	4	6	5	4	7	2	7
累計黒點數	13	19	8	12	22	4	78

報告が澤山來たのを喜ぶ。6名の平均に依れば、觀測日數に對する出現日數の比は0.65で、前月と大差ない。何分觀測者に異動があるから、直ちに此の數字を當てにする事は出來ないが、活況を呈した事は確かである。

猶ほ報告法は、正村氏のが正確である。

南北兩半球の比較	津留	木邊	杏掛	すばる會	阿部
南	54.9	73.9	89.2	65.4	57.3
北	53.4	62.3	62.9	58.9	56.4

平均に依れば南1.00に對し北0.83、即ち南55%、北45%となり、前月よりも

黑點相對數報告 (1939年8月)

觀測者(觀測地)	坂上務(福岡市大名町)	津留繁雄(熊本市本莊町)	岸上智(香川縣觀音寺町)	織田太郎(大阪市明星商業)	木邊成磨(滋賀縣中里村)	正村一忠(岐阜市濬旗町)	大石辰次(靜岡縣吉永村)	降旗常雄(長野縣常磐村)	香掛七二(長野縣青木村)	すげる會(橫濱市)	小石久太郎(東京市神田區)	阿部正明(東京市池袋)	片山八郎(東京市立一中)		
口徑 mm	40	130	58	76	75	25	55	150	102	50	58	32	50		
倍率	102	32	61	45	40	75	60	48	64	65	75	50	64	45	32
1	79	曇		曇	旅	曇	53	122	69	76	旅	曇	曇		
2	雨	雨		98	78	51	曇	139	103		曇	曇	曇		
3	雨	雨		76	84	45	曇	曇	143	90	曇	曇	曇		
4	84	曇		曇	旅	44	曇	曇	曇		曇	曇	曇		
5	76	曇		88	曇	曇	89	曇	122		曇	曇	曇		
6	曇	曇		曇	旅	曇	85	曇	曇	103	78	曇	96		
7	曇	曇		曇	曇	曇	曇	曇	曇	100	100	曇	106		
8	112	曇		曇	曇	曇	曇	曇	曇	141	123	曇	115		
9	133	曇		曇	曇	曇	曇	曇	198		曇	曇	曇		
10	曇	135		曇	曇	曇	曇	150	210		曇	曇	曇		
11	135	雨		曇	曇	曇	曇	曇	201	201	曇	曇	曇		
12	151	曇		曇	曇	115	140	133	230	178	曇	曇	164		
13	154	旅		曇	曇	曇	曇	曇	224	176	曇	曇	180		
14	旅	曇		156	180	曇	曇	149	180	160	曇	曇	曇		
15	112	113		161	184	曇	130	167	曇	157	106	曇	140		
16	旅	136		148	141	107	138	157	160	154	95	曇	151		
17	176	150		119	119	曇	141	雨	165	146	142	曇	149		
18	131	141		125	119	曇	106	110	179		106	曇	126		
19	155	124		94	170	曇	曇	曇	曇		118	曇	雨		
20	136	138		旅	148	曇	曇	163	143		雨	曇	曇		
21	120	113		曇	曇	曇	曇	151	曇		105	曇	104		
22	113	曇		曇	曇	曇	曇	190	116	112	93	曇	曇		
23	92	82		曇	曇	曇	曇	154	曇	92	86	曇	74		
24	曇	95		曇	曇	曇	曇	204	曇		曇	曇	曇		
25	116	曇		曇	曇	曇	48	曇	173	119	87	曇	87		
26	121	87		114	曇	曇	曇	116	142	140	96	曇	99		
27	雨	雨		曇	曇	曇	曇	72	140	110	98	曇	旅		
28	曇	曇		曇	曇	曇	曇	70	155	79	81	曇	曇		
29	曇	曇		曇	曇	曇	曇	53	曇	曇	曇	曇	80		
30	91	曇		曇	曇	曇	曇	70	145	曇	103	曇	60		
31	旅	73		曇	曇	曇	曇	80	154	151	112	曇	81		
觀測日數	19	14		11	19	10	15	19	20	19	19	16			
一日平均	120	109		112	136	65	94	152	152	124	95	114			
前月平均	85	80		87	111	63	68	123	134	—	73	90			

更に南に偏したらしい。(各人比較的よく揃つた)

其他 杓掛氏により各黒點群の概略緯度の報告があつた。又津留氏に依り高緯群の報告(急報所載)があつたが、右は16日東端より出現した小群で、杓掛、津留兩氏共に南 30° と測定された。猶すばる會(責任觀測者 堀田氏)よりは大黒點群のスケッチ送付があつた。

追加報告 坂上氏1939年7月分肉眼的黒點觀測報告22日中11日出現4群計18個との報告受理。

訂正 前號の相對數表中、坂上氏29日缺は曇りと訂正。(木邊記)

★ 遊星面課 (1939年8月)

觀測報告は8月に入つて激増した。一々見取圖受領數を報告すべきであるが、協同觀測終了の10月末(誌上では11月號)に纏めて發表する故御諒承を乞ふ。見取圖總計162枚。

新觀測者として、東京市の山根平三氏、横濱市の堀田泰生氏、大阪市の西森紀久雄氏、同大口周作氏、大阪支部諸氏の加入を見ました、今後も増加の見込。

火星近況——豫想通り南極冠はグングン縮少し、8月の下旬には急激に縮少して、30日夜の觀測では、約10度位の擴りしか無い。又、其周邊も、所々缺け込み等が出來てゐる。去る8月20日夜、南極冠の北方に隣接して長三角形の黄白色の部分が見られ、雲か或は極冠に關係したのか又は、火星面直接に現れたものか不明で、其後も觀測を續けたが、どうやら雲ではなく、アルヂレⅡが特に著しく、黄白色を呈したのではないか……と感じられたが其後、自轉の都合で見難くなつたので疑問のまま一先づ打切り、次の機會を待つ事とした。

北極冠は其後其大きさ光輝色彩等に大した變化無く、Diskの下端に輝いてゐるが、餘り目立たず、8纏級には稍々見難い。これは中央緯度が南に偏し従つて北極附近が像の向ふ側へ廻つてゐる爲で、事實は、頗る美しく大きく輝いてゐる筈である。

運河は見難いが、併し、良シイグさへ得られたら相當見られる。

南半球一帯の海洋部は、本年は非常に淡く、10度邊から170度邊迄の南海は、非常に淡く感じた。

變光星觀測結果概況 Results of Observations of Variables.

RS Cnc (RV Tau型)	242 9265.9 6.8 Yd	9288.4 12.8 Kb	4014.0 8.6 Kb
1939 III~V (9 Est.)	66.9 6.5 "	9300.2 < 11.8 Sn	19.0 8.9 Ob
242	72.9 6.7 "	39.1 9.7: Kb	" 9.0 Kb
9332.0 6.1 Ob	75.9 6.7 Si	42.0 9.8: "	20.0 9.0 Ob
36.0 6.0 "	77.9 6.5 Yd	49.1 9.8: "	21.0 9.0 Kb
36.9 5.7 "	82.9 6.5 "	51.0 9.4: "	24.0 9.1 Ob
42.9 5.8 "	84.0 6.7 Si	60.0 9.4: "	29.0 9.0 "
99.0 6.0 "	87.9 6.5 Yd	62.0 8.9 Ob	" 9.2 Kb
9400.0 6.1 "	89.0 6.7 Si	63.0 9.1 "	31.0 8.7 "
1.0 6.1 "		64.0 9.0 "	34.0 8.8 "
3.0 6.2 "	α Cet (Mira 型)	65.0 9.1 "	
4.1 6.1 "	1939 I~II (10 Est.)	65.1 8.4 Kb	V CVn (Mira 型)
γ Cas (Irr.)	242	67.0 8.7 "	1939 II (3 Est.)
1939 I~V (10 Est.)	9272.9 7.4 Yd	68.0 8.7 "	242
242	74.0 7.9 Si	69.0 9.1 "	9310.1 7.6 Ot
9274.0 2.7 Kb	75.0 7.7 "	71.0 9.1 "	13.0 7.5 "
78.9 2.7 "	77.9 7.9 Yd	72.0 8.5 Kk	21.0 7.6 "
87.0 2.6 "	82.9 7.8 "	78.0 8.6 Kb	
9301.9 2.7 "	87.9 7.9 "	79.0 8.4 "	W Cyg (Irr. ?)
12.9 2.7 "	89.9 8.2 Si	82.0 8.5 "	1939 I (6 Est.)
23.0 2.8 "	9301.9 8.4 "	86.0 8.2 "	242
36.9 2.8 "	4.9 8.5 "	93.1 8.2 Si	9265.9 6.0 Yd
41.0 2.8 "	5.1 8.4 Yd	94.1 8.9 Kb	69.9 6.3 "
9401.3 2.7 Ob		97.0 8.4 "	72.9 6.1 "
34.3 2.7 "	S CMi (Mira 型)	98.0 8.4 Ob	77.9 6.2 "
	1939 I~II (7 Est.)	99.0 9.0 "	87.9 6.5 "
	242	" 8.3 Kb	91.9 6.3 "
T Cen (Mira 型)	9272.1 8.5 Sn	" 8.5 Si	
1939 V (6 Est.)	74.0 8.6 Ss	9400.0 9.0 Ob	TT Cyg (Irr. ?)
242	76.0 8.8 Sn	" 8.2 Kb	1939 VI (3 Est.)
9393.0 6.7 Si	84.0 9.7 Ss	1.0 9.1 Ob	242
40.0 6.5 Ob	81.1 9.6 Sn	1.1 9.1 Si	9429.0 8.4 Ob
1.0 6.3 "	9301.9 9.7 Ss	3.0 9.0 Ob	32.1 8.4 "
1.1 6.5 Si	17.0 10.0 "	" 8.6 Kb	34.0 8.1 "
3.0 6.1 Ob		" 9.1 Si	
3.0 6.1 Si	R CrB (Irr.)	4.0 9.0 Ob	S Dra (RV Tau 型 ?)
	1939 I~VI (49 Est.)	5.0 9.3 Kb	1939 VI (6 Est.)
T Cct (Irr. ?)	242	10.0 8.8 "	242
1939 I (9 Est.)	9286.4 12.8 Kb		9419.0 8.3 Ob
			20.0 8.0 "

9424.0 8.0 Ob	9400.0 7.5 : Ob	9287.0 14.0 Kb	9303.0 8.5 Si
29.0 8.1 "	01.0 7.5 "	9301.9 14.0 "	11.0 8.3 "
32.1 8.1 "	03.0 7.5 "	12.9 14.2 "	16.9 8.2 "
34.0 8.4 "	04.1 7.4 "	R Leo (Mira 型)	18.9 8.3 "
R Gem (Mira 型)	19.0 7.5 "	1939 I~VI (19Est.)	21.0 8.3 "
1939 II~IV (9 Est.)	20.0 7.3 "	242	22.9 8.3 "
242	24.0 7.5 "	9274.1 6.6 Ot	23.0 8.6 Kb
9284.1 6.5 Ot	29.0 7.6 "	77.0 6.7 "	25.0 8.4 Si
9305.0 6.9 Yd	32.1 7.6 "	80.0 6.9 "	31.0 8.5 "
40.0 7.7 "	34.0 7.5 "	83.0 7.1 "	31.9 8.4 "
42.0 7.6 "	DO Her (Nova)	87.0 7.2 "	40.9 8.0 "
46.0 8.1 "	1939 III~VI (10Est.)	96.3 7.4 "	43.0 8.2 Kb
48.0 8.1 "	242	9302.0 7.5 "	44.0 8.2 "
49.0 8.1 "	9349.2 9.3 Kb	05.1 7.4 "	49.1 8.2 "
62.0 8.1 "	65.1 10.0 "	10.0 7.7 "	54.0 8.0 "
64.0 8.0 "	97.0 9.4 "	16.2 7.7 "	59.9 7.6 Si
TW Gen (?)	9403.0 9.7 "	20.9 8.6 "	60.0 7.2 Kb
1939 IV (2 Est.)	05.9 9.8 "	37.0 9.2 Ob	62.9 7.5 Si
242	10.0 9.9 "	65.1 9.5 "	68.0 7.4 Kb
9362.0 8.3 Yd	18.0 9.8 "	78.1 9.6 "	71.0 7.3 "
64.0 8.1 "	21.0 9.6 "	98.0 9.6 "	82.0 8.0 "
η Gem (Mira 型)	31.0 10.0 "	9403.0 9.6 "	86.0 8.1 "
1939 I~IV (9 Est.)	34.0 9.9 "	21.0 9.5 "	RY Mon (Mira 型 ?)
242	R Hya (Mira 型)	24.0 9.4 "	1939 I~IV (10Est.)
9273.9 3.3 Mi	1939 I (1 Est.)	29.0 9.3 "	242
85.1 3.7 Ss	242	U Mon (RV Tau 型 ?)	9273.0 8.8 KZ
88.0 3.3 Mi	9266.4 6.8 Ot	1939 II (5 Est.)	90.0 8.8 "
9302.9 3.4 "	V Hya (Mira 型)	242	9302.9 8.9 "
08.9 3.7 Ss	1939 III~IV (4 Est.)	9301.9 5.6 Ot	13.9 8.9 "
17.0 3.7 "	242	07.9 5.9 "	45.9 9.0 "
30.0 3.4 Mi	9346.1 8.1 Yd	11.0 6.2 "	62.0 9.0 "
34.0 3.5 "	48.1 8.4 "	17.0 6.4 "	63.0 9.1 Ob
71.0 3.9 "	49.1 8.4 "	21.0 6.6 "	64.0 9.1 "
AC Her (RV Tau 型)	61.0 6.5 Sn	X Mon (Mira 型)	64.9 9.0 Kz
1939 V~VI (12 Est.)	CP Lac (Nova)	1939 I~V (25 Est.)	65.0 9.2 Ob
242	1939 I~II (4 Est.)	242	
9398.1 7.6 : Ob	242	9276.1 9.0 Si	
99.0 7.5 : "	9273.9 13.8 Kb	84.1 9.0 "	
		90.0 9.0 "	

★ 彗 星 課

急報で明らかな如く、又々タトル彗星が見つかつて、今年初以來の彗星は合計10ケとなつた。即ち：

順 序	發 見 者	星 名	發見の日
1939 a	コジク氏, ベルテヤ氏	(新)	一月17日
1939 b	ヴ イ サ ラ 氏	(新)	二月 8 日
1939 c	ジ エ フ ア ス 氏	ボン, キンネケ	三月17日
1939 d	ハセル氏, 岡林氏等	(新)	四月15日
1939 e	ワンピリスブルク氏	コ ブ	四月22日
1939 f	ジャクソン氏	ジヴスマン, ワハマ	六月12日
1939 g	ジエフアス氏等	第二ブルクス	六月17日
1939 h	リゴレイ氏	(新)	七月28日
1939 i	カミンスキ氏	(新)	七月24日
1939 j	ジエフアス氏	タトル	八月12日

尚ほ此の他に、ボレリ(急報359), フルフ(急報376), ジャコビニ(急報380)の三彗星が近づいて來てゐるから、誰かに發見されるだらう。

リゴレイ彗星については、メライ, カスタイ, ライベ, マクスエル, パノフスキ諸氏等が算出した楕圓軌道要素が今までに發表されてゐる。即ち、

	Müller 氏	Kaster 氏等	E. Rabe 氏	A. D. Maxwell 氏	H. A. A. Panofsky 氏	1788 II
T	1939年8月 9.4070	9.198	9.0248	9.117	9.28121	—
ω	28°37.0	28°53'	28.5209	28°42'	29°02.4	30.439
Ω	355 03.0	355 19	355.0670	355 17	355 30.0	352.484
i	65 37.0	63 56	63.5395	63 55	64 14.1	64.468
q	0.74986	0.7499	[9.875178]	0.7503	0.74986	0.7574
Eq	1939.0	1939.0	1939.0	1939.0	1939.0	1788.0

米國のカニンガム氏は此のリゴレイ彗星は百五十年前に現はれた 1788 II 彗星と同じものだらうとの意見を出してゐるので、上表に此の彗星の軌道要素をも掲げて見たが、なるほどよく一致してゐる。

今後も尚、既知未知の彗星搜索のため、讀者諸氏の御奮闘を望む。それらしいものを發見されたならば、早く下名へ御知らせ下さい。歐州は戦争中ですが、吾々とコペンハーゲンとの連絡は今尚完全に有ります。